

京都民医連中央病院

Kyoto Min-iren Chuo Hospital

オーダーメイドの教育と働き方で 自分が進むべき方向を見据える。

京都市西北部の落ち着いた住宅街で、地域医療を担う京都民医連中央病院。
新たな医療のあり方に挑戦する同院には、医師が働きやすく、十分な教育を受けられる環境がある。



京都民医連中央病院 院長

吉中 文志氏

1978年 京都大学医学部卒業
 1978年 北病院
 1980年 上京病院(現・上京診療所)
 1985年 神戸中央市民病院
 (現・神戸市立医療センター中央市民病院)
 1987年 京都民医連中央病院
 1992年 上京病院副院長(現・上京診療所)
 1997年 同院院長
 2002年 京都民医連中央病院院長
 京都府保険協会理事 日本内科学会総合
 内科専門医 日本循環器学会専門医

2019年新病院のオープンで 地域医療支援病院への転換を図る。

1987年、205床の総合病院としてスタートした京都民医連中央病院は、創立以来「京都市西北部で地域医療を担い包括ケアを支援する民医連立の急性期・教育病院」であることを目標としてきた。京都市西北地域は人口に対する病床数が極端に少なく、回復期リハビリを持つ施設は同院の他に1院、二次救急は同院のみ。地域において重要な役割を果たしている病院だ。2011年には新たに障害者病床50床、医療養病棟48床、緩和ケア病棟14床を有する地域医療棟を増設。病院機能を充実させることにより、更に地域への貢献度を高めている。

そして同院では今、建物の構造上の問題から高度化する医療に対応するのが難しくなってきたことや本館設備の老朽化などから、全面リニューアルの新病院建設計画が進んでいる。

「ハードを新しくするだけでなく、同時に現在の病院機能をより深めていく予定

外傷を含め全ての救急患者さんを受入れる体制を整えていきます。

二つ目は、地域医療支援病院への転換です。開業医の先生方にかかりつけ医として連携していただき、当院は紹介外来・専門外来・救急に特化、より重篤な患者さんに重点をシフトする。救急重症治療、がん診療、透析医療を中心に、産婦人科、リハビリテーションなどを含め、地域の拠点病院的な存在にしたいと思っています。

また、現在当院は差額室料をいただいでいませませんが、経済の不安定な時代においてそのようなセーフティネット的な役割は引き続き果たしていきたいと思っています」

挑戦するマインドを大切に新しい医療を創り出す。

新病院開設を控え、次のステップに移ろうとする同院。今必要とされている人材とはどんな医師なのか、吉中氏に伺ってみた。「新しい医療を創ろうとする意欲のある人、創造力、挑戦力、構想力をもった医師に加わっていただきたいと考えています。

力してきたが、2014年には教育研修センターを設置。一層の医師の教育に努めている。同院の教育の特徴を研修教育を担当する井上氏に伺うと、「適度な症例数と十分な教育、両者のバランスがとれていることですね」という答えが返ってきた。

また、同院では本人の目指す方向にできるだけ合わせた教育を心がけているという。「二人ひとりの希望を伺い、それに合わせる、いわば『オーダーメイド』のプログラムです。当院には、将来開業を目指す人、無医村に行くため幅広く診られるようになりたい人、もう一度内科を学びなおしたい人など、様々な目的をもった医師がいます。韓国、ベトナムなど海外の病院との交流もあり、欧米の病院への医師の派遣研修も進めています。まだ目標が定まらない人は、きっとここで、自分の方向性を見つめられると思います。

病気を診て治すのではなく、最終的には患者さんがハッピーになるまでサポートすることが大切。そのためには臓器だけではなく、社会背景も含めた人間全体を診られる医師を育てたいと思います」

育児しながらキャリアアップ。 個々に合った働き方を選択。

腎・透析科で医長を務める神田氏は、同院で2度の出産・育児休暇を取得。現在は産休明けで時短勤務中だ。「当院では、無給の期間も含めれば、最長で子どもが3



腎・透析科医長
神田 陽子氏

2000年 信州大学医学部卒業
 2000年 松本協立病院
 2003年 京都民医連中央病院
 日本内科学会認定医

歳になるまでは育児休暇が取得できません。復帰後は6/11単位以上の勤務があれば、常勤としての時短勤務が可能。非常勤は研修期間として認定されないで、資格取得を目指す医師にとってはありがたいシステムです。子育てしながらキャリアアップができます」

同院では周囲の人々に理解があり、温かく協力してくれるという。男性医師も普通のこととして育児休暇を取得している。他にも持病のある医師や、親の介護を行いながら働く医師なども、個々人の事情によって、相談しながら勤務体制などを決めていく。男女問わず働きやすい職場だ。

「産休・育休は誰でも不安なもの。復帰できてもフルタイムでは働けず、周りに迷惑をかけているかと思うストレスになることも。その結果、なかなか復帰に踏み切れない女性医師もいるでしょう。しかし、働きたいという意志があるなら、現場と繋がっておくのは大切なこと。当院では週1単位からでも、働き始められます。まずは自身がどうしたいのかを相談してください。教育同様、働き方も『オーダーメイド』です」

同院には、自分の生活を大切にできる職場で、目指す方向を定めて、共に新しい地域医療の創造に携わるチャンスがある。

新しいことへの挑戦には困難や壁がつきもの。しかし、めげずにやってみようというマインドがある人が集まり、互いに気持ちを重ね合わせることであれば、何事もきつとくまなくいくはずだ

大切なのは、技術よりもまずはマインドだ」と吉中氏。

「私の夢は、総合診療医が重症医療や救急、小児医療まで一次対応で幅広くカバーし、手に負えない場合に各専門分野の医師にバトンタッチするといった体制を創ること。こういった夢を実現するには、意欲とマインドが必要だと思います」

オーダーメイドの教育で 自分の進むべき道を見つける。

同院では、これまでも臨床研修などに注



集中治療科科長・
初期研修プログラム責任者・医局長
井上 賀元氏

2001年 滋賀医科大学医学部
 医学科卒業
 2001年 京都民医連中央病院
 2002年 上京病院(現・上京診療所)
 2004年 京都民医連中央病院
 集中治療科科長
 京都民医連中央病院初期研修
 プログラム責任者
 日本内科学会総合内科専門医
 日本プライマリケア学会認定医・指導医
 日本腎臓学会専門医・指導医
 日本透析学会専門医
 [当直医マニュアル2016] [研修医手技
 マニュアル](医歯薬出版)編集代表

公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院

●募集科目/総内、救急、神内、呼内、外、リハ、他 ●給与/年額1200万円～ ※経験・スキルにより優遇 ●業務内容/救急、DPC 病棟担当医師、回復期リハビリテーション病棟の担当医師、他 ●勤務形態/常勤、非常勤 ※当直等は応相談可 ●勤務日数/週5～5.5日(4週6休) ●勤務時間/月曜日～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～13:00 ●休日/日・祝日、有給休暇、夏期休暇、年末年始休暇等 ●待遇/健康保険、労災、雇用保険、年金、共済制度、学会補助、女性医師短時間常勤制度、家族手当、通勤手当、当直手当等 ●勤務地/京都市中京区西ノ京春日町16-1 ●交通/京都駅からJR嵯峨野線で9分の「円町駅」より徒歩7分、地下鉄東西線「西大路御池駅」より徒歩10分 【病床数】411床(一般病床359床、地域包括ケア病床52) 【診療科】内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科、神経内科、腎臓内科、人工透析内科、感染症内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、血液内科、糖尿病内科、代謝内科、脂質代謝内科、外科、肛門外科、心臓血管外科、脳神経外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、リウマチ科、脊椎外科、関節外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、耳鼻咽喉科、麻酔科、臨床検査科、救急科、病理診断科、歯科口腔外科

◎応募・問い合わせ/まずは担当まで直接ご連絡ください。 TEL.075-822-2777 【医局事務課/西田影山】
 〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町16-1

H P ■ <http://kyoto-min-iren-c-hp.jp> E-mail ■ kmchiky@zeus.eonet.ne.jp